

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和4年度（2022年度）病虫害発生予察注意報第2号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

令和4年度（2022年度）病虫害発生予察注意報第2号

農作物名 早期水稲
病虫害名 いもち病（葉いもち、穂いもち）

- 1 発生地域 早期水稲栽培地域
- 2 発生時期 穂ばらみ期以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 気象データ（AMEDAS）を用いた「いもち病感染好適条件判定（BLASTAM）」では5月3半旬と6月3半旬に感染好適条件となった日が多かった（別表1）。
- (2) 6月中旬に実施した早期水稲の巡回調査によると、葉いもちの発病株率は29.3%（平年2.2%）、発病度は9.5（平年0.6）と平年比多の発生であった（図1）。
- (3) 多発ほ場の一部では症状の重い「ずり込み症状」も見られている（図2）。
- (4) 福岡管区気象台の発表では6月11日に梅雨入りし、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなる見込みであり、いもち病の発生に好適な条件となる。

5 防除対策

- (1) 穂いちは発生後の防除が困難であるため、出穂前に予防防除を徹底する。
- (2) ほ場をよく観察し、上位3葉に葉いもちの病斑が見られる場合は速やかに防除を行う。
- (3) 出穂期を迎える水稲で粉剤や水和剤を使用する場合は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。

なお、粒剤を使用する場合は出穂前に散布するが、薬剤により散布時期が異なるので、ラベルを確認して使用する。



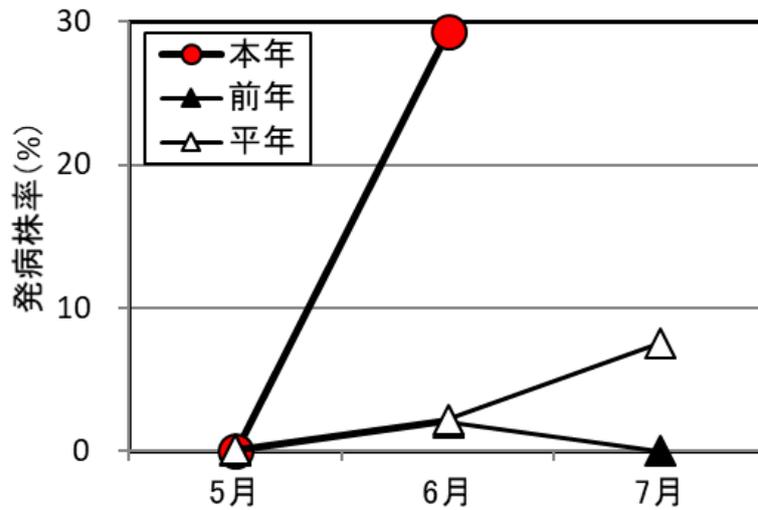


図1 早期水稻葉いもち発病株率の推移



図2 いもち病が多発したほ場（調査地点）の状況（令和4年6月13日撮影）

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター
 生産環境研究所内)
 担当：清永 TEL 096-248-6490



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>」

